

◎第二回アジアシンポジウム <第3セッション>

# アジアに欧州並みの 統合は可能か

周 牧之

東京経済大学経済学部助教

馬 暁河

中国国家發展和改革委産業發展研究所長

陳 少峰

北京大学文化産業研究所副所長

張 燕生

中国国家發展和改革委対外経済研究所長

横山 禎徳

社会システムデザイナー

塩崎 恭久

衆議院議員

[コーディネーター]

イエスパー・コール

メリルリンチ日本証券チーフエコノミスト



よこやま・よしのり

1966年東京大学工学部建築学科卒業。設計事務所を経て、72年ハーバード大学大学院にて都市デザイン修士号取得。75年MITにて経営学修士号取得。75年マッキンゼー・アンド・カンパニー入社、87年ディレクター、89年から94年に東京支社長就任。2002年退職。東北大学、一橋大学大学院で非常勤講師も務める。



しゅう・ほくし

1963年中国湖南省長沙市生まれ。中国湖南大学工学学士、東京経済大学大学院経済学研究科博士課程修了、経済学博士号取得。85年中華人民共和国機械工業部(省)入省、91~94年(財)日本開発構想研究所研究員、95~2002年(財)国際開発センター研究員、主任研究員を経て2002年より現職。主な著書に『メカトロニクス革命と新国際分業—現代世界経済におけるアジア工業化』等。



ちょう・えんせい

1955年生まれ。82年四川大学法学部卒業。84年、武漢大学経済学修士号取得。84年から96年まで中央財經大学教員。88年世界銀行で研修。96-98年国家發展計画委員会対外経済研究所国際研究室主任。98年-2001年、同副所長。2002年から現職。中国におけるFTAの先駆的な研究者で、立案及び交渉に携わる重要な政策メーカーである。



ま・ぎょうか

1955年生まれ。83年中国人民大学農業経済学部卒業。85年国家計画委員会経済研究所室長、副所長。99年国家發展改革委員会産業發展研究所研究員(教授)。2002年同産業發展研究所長。同年、南京農業大学経営学経済学博士号を取得。『中国創業投資とハイテク』雑誌総編集長、中国人民大学兼職教授。著書は、『中国第十次五カ年時期産業發展研究』ほか多数。



しおざき・やすひさ

1950年生まれ。東京大学教養学部卒業、ハーバード大学行政学大学院修士(行政学修士)。75年日本銀行入行。93年衆議院初当選。大蔵政務次官、自民党法務部会長、外交部会長等を歴任。現在、自民党財務金融部会長。主な提言・寄稿に『日本版SECを創設せよ』『金融動乱第二幕は資産市場の再構築がカギ』等。



ちん・しょうほう

1964年生まれ。84年福建師範大学卒業。南京大學、北京大學、日本の早稲田大學を経て、91年に北京大學博士号を取得。93年北京大學哲学学部助教。2000年より現職。北京大學文化産業研究所副所長、文化部・北京大學國家文化産業創新与發展研究基地副主任。著書は『中国倫理学史』(上、下)(北京大學出版社、1997年)ほか多数。



イエスパー・コール

ジョンズ・ホプキンス大學卒。OECD調査統計部、京都大學經濟研究所研究員、SGウォーバーク証券、JPモルガン調査部長、タイガー・マネジメントを経て、1999年メリルリンチ証券入社。日本經濟の調査に携わり、經濟産業省の産業金融小委員会等、政府諮問委員会にて政策提案策定に参画。内外の雑誌・新聞に多数寄稿。

アジアに欧州のような統合の可能性はあるのか。パネリストの間には、独仏のような理念的・哲学的基盤が、日中の間にあるかという点について否定的な見方が多く、むしろ日中関係が経済偏重になっていることへの懸念が指摘された。しかし国際的な大きな構造改革が進む中、アジア各国の多様性を生かしたうえで、覇権主義とは無縁の「アジア文化」が生まれる可能性があり、まずは若い人々の交流によって足元を固めることで一致した。







は、みんなヘゲモニー的な発想なんて全然持ってない中小企業なのです。

旧通産省は、1970年代まで、いろいろな産業の保護育成をしました。その中に漏れていたのは大衆文化産業です。おかげで徹底的に自由にアメリカ文化が入ってきた。では、日本はアメリカ文化に徹底的に染まってしまったかという。そうではない。これは中国と日本の関係も同じで、中国からいろいろ学んでいるけれども、文化というのはそれぞれの国で非常に強い。しかも、アジア諸国はすべて何千年の歴史の文化を持っているから、そう簡単にアメリカ文化で全部席卷されアメリカそのものになってしまうことはない。自分の文化の力をもっと信じたらどうかと思うわけです。



### 「アジア人」という概念はあるか

「ヨーロッパ人」という概念が、ある種の理想主義として存在すると思うのです。

今のEU憲法の問題を見ていると、現実はその簡単ではないが、理想主義としては「ヨーロッパ人」というのがある。では、同じように「アジア人」というのがあり得るのか。

アジア諸国は、人口7000万人とか1億人とか、非常に大きな国が多い。中国の13億人に比べれば小さいが、人口的には大きな国ばかり。それで「アジア人」というふうな理想主義を掲げることができるのだろうかということですね。

アジアというのはだれがつけたのかよく知りませんが、ヨーロッパのようにジュデオ・クリスチアンの共通文化の中にないわけです。宗教的にも文化的にも多様です。では、文化的な面でどういう理想主義を掲げるか。「アジア人」という概念はあり得るのだろうかとなるのです。今のところはないと思います。

役人対役人が議論していると、どちらも日本と中国という政府を背負って議論して



しまうので、どこか限界がある。ところが、そうでない人たち、例えばアニメのクリエイターなどの人の交流が出てきたら、それがある種のアジア的なものというごった煮的な文化をつくるかもしれない。実際はもう既にそういう傾向がある。その場合、日本文化が席卷するというのではなく、それぞれの中からまた新しい特徴のあるものが出てくる。日本は、そうやってアメリカ文化を活力にしたわけですが、そういうことが各国で出来ないだろうか。その辺の文化的自由さは、情報技術、特にデジタル技術によって国境を越えてしまう可能性がある。



### アジア的英語が共通語になる可能性

ところで、日本は文化を受け入れてしまったのですが、困ったことに、人をあまり受け入れない国です。アメリカは人も文化も受け入れる国。フランスは、人をたくさん受け入れている。フランスにとって苦しい問題は、合法、非合法に入ってきた人を含めて、イスラム教徒が人口の15%いることです。だから、フランスは人を受け入れたけれども、文化は拒否しているのです。ところが、日本は文化は勝手に入ってくるけれども、人はあまり受け入れない。このところをオープンにする必要がある。

文化というのはレイヤー（重層）ですから、そんなに席卷されてしまうことはない。だから、受け入れて、ごった煮のところが出てくるが、では、共通語はどうだろうか。



Shaofeng Chen

多分、共通語は英語になるだろう。非常にアジア的な英語ができ上がってくるのではないかと。英語というのは非常に自由です。だから、アジア的英語のごった煮の中から新しいアジアの共通文化が出てくるのではないかなと思います。

コール 陳さんは、どうでしょうか。

陳 2点、お話しします。1つは哲学の問題、もう1つは実践の問題です。

1988年から交換留学生として早稲田で勉強し、91年に帰り、その後、3年ごとに日本に来ています。この時期はちょうど日本が非常に大きな変化を遂げた時期。中国も同じように大きな変化を遂げています。その中で、うれしいことと心配事がありました。

うれしいことは、日本の多くの面で、発展過程の中国と相互補完性が非常にあるという点です。日本経済がよければ、中国経済もよくなってきます。相互補完性は長く続くと思います。ただ、その後は、競争関係になるかもしれません。



ものを輸出してもらいたいということです。

特にオリンピック前にはもっとその面の力を強めると思います。携帯電話に関してなぜ日本が中国の携帯市場で大きな役割を果たせないのかという問題もあります。中国人は日本のアニメを非常に好んでいる。私は他の面でいろいろ日本の文化製品を中国に入れてもらいたいと思います。

コール 塩崎さんは、政治交流とか日中の可能性については、どうみていますか。

塩崎 政治家の交流に限定をすると、日中とか、日韓もややそうですが、概して偉い人たちがばかりで、我々レベルぐらいただと、例えば中国大使館の方が私の部屋に来られるようなことはまずありません。韓国大使館の場合もほぼ同様です。しかしアジアの他の国の政治家はというと、ASEANの政治家とのつき合いはかなり緊密に行われています。

この間、東京での日・ASEAN特別首脳会議では、ASEANの人たちとの会合が割合ありました。定期的に会って親しくなっているのです。互いに行ったり来たりします。ところが、中国の方がそういう会合に出てこられることはほとんどないし、あるいは出てこられても、別の会合に行くと、違う人が出ておられるというふうで、なかなか友達という関係にならない。これが私は非常に残念です。

ASEAN + 3について認識内のコミュニティーをしっかりと確立しようというのが共通の多分認識だろうと思うのです。経済の面では、いや応なく進んでいくでしょうが、問題は政治です。特に日本と中国、日



本と韓国の関係は、一番近そうで過去の歴史の問題がいつもネックになっていてなかなか難しく、このコミュニティービルディングをどうしたらいいのかといつも思うのです。もっとチャンネルを多く持ち、意識的に関係をつくっていかないと、歴史的な問題の克服はいつまでたっても出来ない。



### 高校生段階から日中で人的交流を

人的交流の中で、統計上、留学生に扱われていないジャンルがあります。それは高校生の留学です。私は高校生時代アメリカに1年、経験をしましたが、日本が受け入れる場合、例えば中国や韓国から日本の家庭に入ってもらいホームステイで1年間といったプログラムがほとんどない。最近少しずつ外務省とか文部科学省の中でそういうプログラムをやろうとしています。それが、今回、特別首脳会議において、人的交流を深める一環として高校生レベルの留学、



交換も重視しようということになったことは大変明るい話題です。

例えばアメリカン・フィールド・サービス (AFS) というプログラム。毎年、世界中から3000人の高校生がアメリカの家庭に1年間住むのですが、これを50年間も続けていたら、どれだけ多くの人が、アメリカを理解することになるでしょうか。今、日本では日本とタイとか、日本とチリとか、日本とドイツとか、お互いに1年ずつ家庭に入れてやっているのです。

私は、歴史問題を解決する最良の方法は、アジアの若い人たちが日本での生活を通じ、日本人は言うほど悪くはないということを感じてもらいたいと思います。大学で留学し生活面で苦労され、もう2度と日本に来たくないと思って帰られるよりは、まず高校で言葉はすべて克服してもらい、そして再び大学のときに来てもらうようにしないとイケない。そういう若い時から人間的に触れ合い、異国の人をお父さんとかお母さんとか呼べるような関係をつくっていくことが非常に大事だと思っています。

コール 張さん、日本と中国のFTA (自由貿易協定) はいつからできますか。



### 日本アニメ、漫画も交流のキーワード

張 私には15歳になる娘がいます。北京の新華書店に娘と一緒に本を買いに行ったとき、娘に対し5冊、本を買ってあげるから、自分で選びなさいと。すると、老子のものとか、史記という中国の古典の本を娘が選



Yansheng Zhang

ぶのです。どうして古文なのかと聞くと、簡単なことでした。老子、孟子いわく、荀子いわくというような漫画が中国にあり、彼女は小さいときに、それを通じて中国の古い文化に興味を持ったようなのです。漫画などがカギです。娘は日本のアニメや漫画が好きです。いろいろな漫画やアニメの物語が今中国にあります。これらを通じた文化の交流は理解を深めていく上で重要だと思っています。

ところで、日本はアジアの国なのか、東アジアの国なのかという問題があります。日本は、1868年の明治維新で開国し、世界で最も発達した国の1つになり、同時に西洋化を図りました。でも、東洋の国なのです。文化、家庭の価値観など見ましても、日本はやはり東洋の国、東アジアの国だと思っています。同時に、一番早く世界の経済システムの中に参入していった東アジアの国です。

中国は大変大きな国で、日本のように、西洋に学ぶ、近代化をすることはどのくら



いの年月がかかるかという、それは文化の角度から言いますと、500年ぐらいかかるかもしれません。もしかしたら500年後は、西洋の文化がまた振り子のように東洋から西洋の方に戻っていくような現象があるのかもしれません。



### 構造改革、焦点定まらぬ日本に問題

私は経済構造の変化を分析しています。60年代、70年代、アメリカはまさに工業社会からポスト工業社会への転換という段階にありました。そして製造業の生産力、経済全体を見ると、地盤が沈下、低下する状態にありました。そのとき日本の企業は大変強い競争力があり、アメリカは構造転換を余儀なくされた状況があるのです。10年

ほどかけてアメリカは改革を行い、競争力が強まりました。そして、新しいイノベーション、そのようなソフトの環境が大変フレキシブルな形で生まれ、IT革命が出たと私は見ております。

では、なぜ日本はその後、低迷しているかということです。日本はいずれも工業社会からポスト工業社会への転換というプロセスで、本当は制度の改革が必要だったのです。

日本は、ここ10年、どう改革をするか、ずっと状況が定まらない。日本の近代化はある意味では二元的な構造だと思います。世界でも一番すばらしい企業があって、産業があって、製品があって、競争力がありますが、一方で一番脆弱な部分もある。例えば農業ですね。物流の部分でもそうだと



上海の高層ビル内

思います。日本は本当の門戸開放をしていません。

アメリカは日本に追い上げられた中で、ニューエコノミーが生まれた。そこは感謝すべきなのです。では、日本はだれに感謝すべきか。そのカギはFTAでないでしょうか。

いずれ中日間の協力、FTAで、日本は中国に感謝しなければならなくなると思います。日本と中国、韓国、そして東アジアの国々が、もしも貿易や投資、各方面での障壁をなくすことができたなら、日本は競争力のないローエンドの製品は淘汰されていき、そこに中国が入っていく。日本はポスト工業化時代、知的な製品へと移行していく。それらを通じて、日本を含め東アジア全体が繁栄していくのだと思います。

### FTAは政経分離でやれる

なぜ中国がFTAをやりたいかということです。中国の近現代の歴史、日本の近・現代史を見ますと、1つの法則があります。それは外力です。外の力があって、その推進のもとで改革や開放をしていきました。中国も20年あまりの改革はやはりそうでした。中国はFTAで、すべてをリードしたのではありません。中国の国力は日本の4分の1でしかないのです、実際にやろうといっても、それは無理です。私が言いたいのは、FTAは日本、中国それに韓国、そして東アジアの経済にとってもメリットがあるという点です。

だれが主導権を持つかというようなこと

については、棚上げにして、まずは協力という観点から進めるべきでしょう。経済と政治は原則不可分ですが、場合によっては、分割して考えることもできる。

FTAの問題に関しては、政治と経済を一たん分けて考えることができると思います。例えばセンシティブな農業の問題などについて、どうすれば相手側の利益を損なわず、少しずつ段階的に仕切りのある製品、農産物についての門戸を開放するかということ。基本的な共通認識が生まれコンセンサスがあれば協力は可能と思います。コール 周さん、日中の可能性について幅広い発言をしていただきたいのです。

### 過去500年に3つの欧米発の アジア大転換

周 この500年、アジアや、世界をひっくり返したヨーロッパあるいは欧米発の大きな転換は3つありました。1つは大航海で、ヨーロッパ人は直接アジアと取引できるようになった。次は産業革命。3番目が今の情報革命です。これらの大転換は、そのつどパラダイムシフト、パワーシフトを引き起こし、世界、そしてアジアの秩序をひっくり返した。

大航海時代では、アジアで唯一の恩恵にあずかった国は多分中国だと思うのです。南アジア、東南アジアの国々はめっちゃくちゃにされた。中国は17世紀、18世紀に、ヨーロッパとの大規模な貿易で歴史上なかった大繁栄を築き上げました。

産業革命ではアジアは、恐らく日本が唯

一恩恵にあずかった。逆に中国が大混乱状態に陥れられた。しかも、その中でおもしろいのは、ヨーロッパの発想がアジアの国々の関係にもかなり影響した。例えば産業革命以降のアジアの国家の発想はパワーゲームになってしまい、ゼロサムゲームになってしまった。日中間の不幸の時代もこうした背景の中で出てきたのです。

アジアの国々はキャッチアップを図ってきた。欧米にめちやくちやにされた後に、追いつこうとして工業化を一生懸命やってきた。いろいろな国が様々なプロセスで頑張ってきた。その結果、日本、中国、東南アジアを含めて、アジアは今、世界最大の工業基地になった。しかし、最大の工業基地になった途端に、あるいはなりかけたところで情報革命が起きた。これがまたアメリカ発だったのです。そして今、何が起きているかという、新たなパワーシフト、パラダイムシフトが起きて、同時に社会の構造変化をもたらした。パラダイムシフトはアジアの国々の国内の社会構造変革と同時に、アジアの国際関係の社会構造変革をもたらしているのです。

例えば日本は、工業経済社会において非常に均質で平等な社会システムをつくった。でも、これは今、これ以上維持できなくなってしまった。あるいは情報革命の中で、さらに違う社会構造にならざるを得ないという局面にきた。中国の場合は、農業経済社会から一気にいま工業経済社会と情報経済社会、あるいは知識経済社会に入ろうとしている。社会の構造変革、あるいは変化は大規模かつ短期間で起こっています。



Muzhi Zhou

それと同時に、国際社会においても大きな構造変化が起きている。今まではゼロサムゲームだったが、今ウイン-ウインゲームになる可能性もあるし、ならないとだめだという時代がやってきた。さらに、それぞれの国の多様性が極めて大事になり、哲学を新たにつくり出さなければいけない時代が来た。まずパワーゲームの発想を捨てなければいけない。どうやって新しいウイン-ウインゲームの発想を、哲学をつくり出すか。アジアの国々にとってこれは非常に大事な話です。



### アジアの多様性活用が統合に重要

今、アジアの国々がいろいろな発展段階にあって、いろいろな個性を持っている。これらの多様性はFTAとか経済統合にとっては難しい問題だと見る専門家が実に多い。しかし発想を変えれば、多様性はかえてアジアで一番将来性のあるところですよ。

多様性は、知識経済の中で一番のリソースになっている。同じ考え方を持った人たちが、一緒に知識の生産をやると生産性はあまりない。やはり違う発想の人が一緒になって刺激し合って知識の生産が効率よくできる。

逆に言えば、工業化においてはアジアは百何十年かけて今日まで来て、ある程度、成果をおさめている。情報化社会、あるいは情報経済、知識経済の中で、アジアが早くキャッチアップしようとするなら、この多様性を維持し、活用しなければいけない。この多様性がいま物すごく大事なのです。

その意味で、さきほどの横山さんの話には99%賛成するが、1つだけ賛成しないのは、アジアの言葉を英語にしてしまうという考えです。英語にしてしまったら、アジアの多様性がなくなってしまう。違う思考回路を持つ人たちと交流をすることによってもたらす生産性が、ますます大事になってくる時代なのです。

これからアジアは情報革命がもたらすパラダイムシフトの中で、自分の国の社会構造改革、変革をどんどんやっていくと同時に、アジアの国際社会の構造改革をやらなければいけない。そこで哲学が、パワーゲームからウイン-ウインゲームになる。さらに多様性を重視することはアジアの未来にとって非常に大事だと思っています。

**コール** 今の意見どうですか、横山さん。

**横山** 何度も申し上げますが、覇権主義ではない。いま言われたように、ウイン-ウインゲームができるのであったら、覇権主



義ではない。だからといって、中国対日本のサッカーチームが戦えば、日本人は日本チームを応援するし、勝てば喜ぶし、それは当たり前なのだというのが前提。

私は英語にしてしまえと言っているのではなくて、英語をアメリカの表現から取り上げることを言っているのです。アジア的表現の英語が共通語としてあって、だから、我々は日本語をしゃべり、ひょっとしたら北京語をしゃべり、共通語として非常にアジア的になった英語もしゃべる。ヨーロッパ連合（EU）に働く通訳の数は、異常だと思います。あの実態を知っていれば、自国の言葉にこだわるのは大いに疑問だと思います。

**コール** ヨーロッパ統合も歴史の問題、言葉の問題等いろいろあったのですが、割とうまくできました。一つ大事なことは国を越える国家プロジェクトがあったこと。例えば70年代では、ヨーロッパで飛行機をつくろうと、エアバスを計画した。翼はドイツで、エンジンはフランスで、キャビンは



ほかの国でつくって、一緒に仕事をする  
と、だんだん統合できるようになってい  
った。日本、中国、国を越える国家プロ  
ジェクト、アジアエアバスとか、これは可能性  
はあるのでしょうか、なぜやらないのです  
か。



### ASEAN+3の枠組みが落ち着き所

塩崎 先程、FTAの話がありましたが、本  
当はASEAN+3が多分割と落ちつきのい  
いコミュニティーで、何か共通のことをや  
るのであれば、このベースが一番いいと思  
うのです。

その中で、さっき覇権主義はいけないと  
いう話がありましたが、FTAも、ASEAN  
と中国がやろうといった直後に、日本も  
ASEANとやろうということ、やはり中  
国と日本はいつも心のどこかに競争関係に  
あるのですね。

あまり経済のわからない政治家の中には、  
アジア圏内で円を共通通貨にしようとか、  
そういう非現実的なことを言う人が結構、  
多いのですが、そこには元ではないよ、円  
だよというパワーゲーム的な意識があるの  
ではないかと思うのです。だから、何らか  
の共通のプロジェクトができればいいので  
しょうが、それといつもどこかに競争心  
があるため、それが邪魔をしているのでは  
ないかと心配しています。

私達としては、それはそれで夢のあるブ  
ロジェクトがあれば、そんな競争心などは  
乗り越えてやるということでしょうが、け  
れども、それよりも中国と日本が、踏み台

になって新しいアジアのコミュニティーを  
つくるために、いつも互いに意思疎通がで  
きるような関係をつくるプロジェクトの方  
が大事だと考えます。

コール 馬さんは？

馬 日本の多くの企業は、中国が開放した  
初期に、香港、台湾以外では非常に早く入  
ってきた。ところが90年代以降、中国での  
動きを見てみると、日本企業の成果は西側  
の企業よりも少ないのです。

例えば自動車で言いますと、アセンブリ  
メーカーでは85年にドイツのワーゲンが  
中国での現地生産に踏み切った。そのとき  
にトヨタは、中国との自動車の貿易にこだ  
わっていた。いまワーゲンは中国で大きな  
利益を上げています。トヨタとの違いは明  
らかです。

それから携帯電話。韓国の現代、あるい  
は日本のNECなど、企業のミクロ的な協  
力の面でどうして違いが出ているかとい  
いますと、考えるべきものが3つあります。



Xiaohe Ma



大変惜しいですね。

もう1つは、我々の間で何らかのメカニズムができないか。つまり、今、部門別、類別のものをやるというよりは、もっと包括的な協力のシステム、メカニズム、例えばいかに交流するか具体的なものをもっとプランニングして話し合うことができればと思います。



### 観光客の相互交流が日中関係変える

**横山** 今、馬さんの話を聞いていて、やはりすれ違いがかなりあるなという感じがしました。今後どういうことが起こるかという、多分中国からの観光客が日本に3000万人ぐらい来るだろう。今後10年とか15年、20年ですね。それから、華僑、華人と言われる中国以外に住んでいる中国人が1000万人、それから韓国人500万人、その中で5000万人ぐらい日本に観光客が来る時代が来るだろう。

今は中国には3500万人の外国人観光客が来ているのだから、おかしな数字ではないのですが、そういう時代にいろいろな人が日本に来る。1回だけの熱烈歓迎ではなく、何度も日本に来るようになる。そうすると、一体どういう人たちだというのがもっとわかるようになるだろうと思うのです。それは時間と中国の経済力とかそういうもの関係していて、少なくとも過去は馬さんのおっしゃった部分かもしれないけれども、これから先のところでは大分違うと思います。

**馬** 簡単に申し上げます。それはFTA

であっても協力であってもいいのですが、やはり相手を信じることが重要です。そして、自由な協力が発展をもたらすと思います。

**塩崎** 去年は日本の経済がまだひどい状態だったものですから、日本は中国経済のことを怖いと思い、一方、中国側も日本の真実を見ていない面もたくさんあり、それですれ違いが発生してしまったと思うのです。ともかく人間関係が基本で、同じ人に何度も会うことが一番大事であって、そういう面での交流をいろいろな形でやっていくことしかないでしょう。FTAの問題も、お互い疑心暗鬼にならないように等身大の相手の姿を見ることだと思います。



### 6カ国協議での中国の指導力発揮は重要

もう1つ、一番短期的に、日中関係をさらによくするのは、朝鮮半島の問題を今の6カ国のフレームワークの中でお互いに汗をかいてちゃんと解決することです。特に今、中国が非常にいいリーダーシップをとっておられるので、ここで成功することにより日中間にまたワンステップアップの関係が結べるようになるのではないかなと思います。

**張** よく経済的なデータを見るのです。そうすると、大変困ることが多いのです。中国は韓国の最大の輸出国であると同時に、韓国の最大の投資国でもあります。日本も、中国にとりまして最大の貿易パートナーです。そして、中国は日本にとって最大の輸入国となっています。輸出もそうで

